

国後（くなしり）島 ～最も多くの日本人が暮らしていた島～



国後島は根室半島と知床半島との中間に位置する全長約122kmの細長い島で、南端のケラムイ岬から別海町の野付半島まで16kmの近さです。面積は1,489.3km²あり沖縄本島よりも大きい島です。

四島の山で最高峰の爺爺(ちゃちゃ)岳(1,822m)等がそびえる火山島で温泉は10数カ所あり、材木(ざいもく)岩やローソク岩などの景勝地があります。

島には、泊(とまり)村、留夜別(るやべつ)村の2つの村があり、四島で一番多い1,327世帯、7,364人の日本人が暮らしていました。



とまり
泊市街



ふるかまづ
古釜布市街

当時の国後島

国後島は、南半部の泊村^{とまり}、北半部の留夜別村^{るやべつ}の2つの村で行政が行われていました。

国後島も水産業が盛んで、捕ったものを加工する缶詰工場が数多くあり、特にカニの缶詰製造では出稼ぎの方々がたくさん働いていました。

また、択捉島と国後島は森林資源にも恵まれ、特に国後島では、良質の木材が産出されておりました。木材の搬出や陸上での移動のために使う馬は島の生活に欠かせない存在でした。

北方四島での学校教育の始まりは、泊村で開拓使派遣の医師が寺子屋式の授業を行ったのが始まりといわれています。その後定住者の増加に伴い、明治の後半から大正にかけて各島に学校が作られていきました。



ちのみち
乳呑路市街



るやべつ
留夜別役場



缶詰工場



木材の伐り出し



夏休み中のラジオ体操



国後小学校（泊）



^{ちのみち}乳呑路小学校（後ろに^{ちゃちゃ}爺爺岳）



ざいもく
材木岩 (2019年10月撮影)



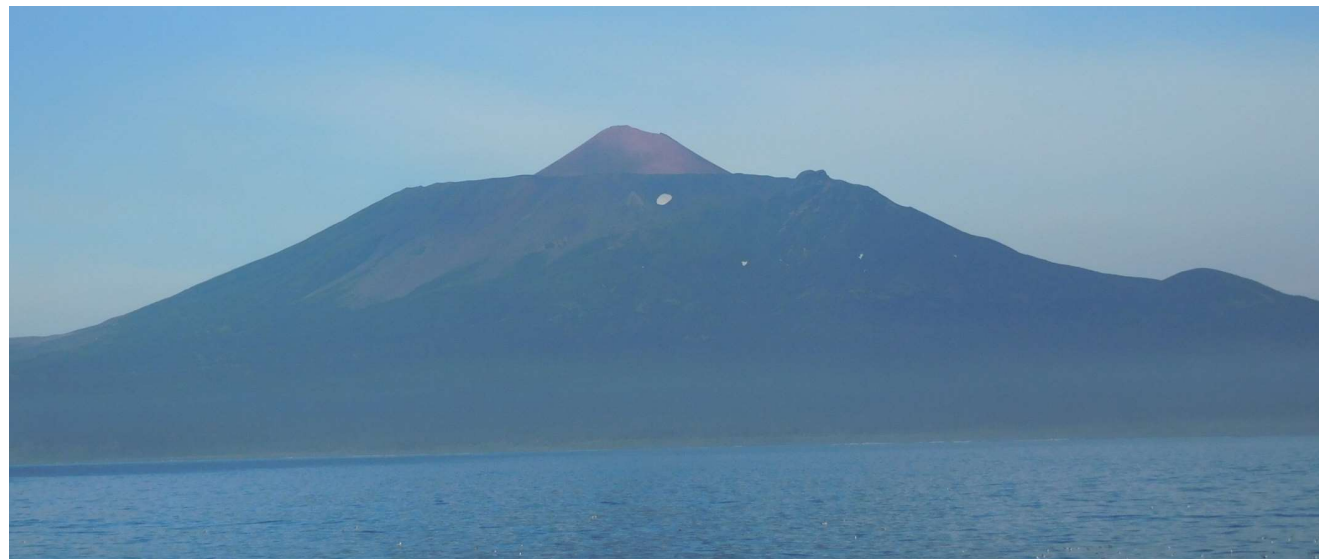
虹が架かったローソク岩 (2018年9月撮影)



こたんけし
古丹消の温泉浴場



セセキ浜の温泉施設
(2011年9月撮影)



ちゃちゃ
四島最高峰の爺爺岳 (2017年7月撮影)

現在の国後島

ふるかまっぶ

古釜布に南クリル地区行政府があり、国後島・色丹島・歯舞群島を管轄しています。

地区の経済において水産部門は最大の比重を占め、80%に達します。専業農家はごくわずかであり、自家農園やダーチャという農園付き簡易別荘での野菜作りが行われています。

幹線道路のアスファルト舗装化、公共施設・集合住宅などの整備が進められています。



ふるかまっぶ
古釜布市街



空港



幼稚園



教会



日本人とロシア人の友好の家（宿泊施設兼緊急避難所）
1999年に日本の人道支援により設置



ダーチャ（農園付き簡易別荘）

